

緊急住宅会議 第3回会議 議事録

日 時：2014年3月14日 19:00～21:00 場 所：内野設計万代町事務所

神戸視察報告

- ・ 裕福な方々の居住地は復興に時間がかかる傾向がある。
- ・ 公園、歩道整備など、街のアメニティを高めることが防災につながる。
→防災名目だと予算もつきやすい。
- ・ 植栽が延焼どめになった。幹周りの半分焦げた樹木でも生き延びている。
→が、死んだ部分との境目から腐朽菌が入りやすい。
- ・ 人と人のつながりが大事。日頃挨拶していれば助けに来てくれる。など。
- ・ 再開発事業では、元々の土地所有者等が所有していた土地や建物の権利相当分を、新しく建てたビルの一部を「権利床」として割り当て、残りを「保留床」として分譲し、その売却益を事業費に充当する仕組み。
- ・ 再開発ビルの建設により人口が倍増するため、それに併せて商店部分の床も倍増させた
が、シャッター街となっている。テナント所有者は貸したがない。
- ・ 公園に、有事の仮設トイレのためのマンホールが並んでいる。
- ・ 宅地の所有者、そこに建っている家の所有者、居住者が、全て同一人物か、どう違うか、把握しておけたら復興がスムーズにいくのでは。
- ・ 敷地の間口と奥行き、方位などに応じた復興住宅のモデルを作っておく？
- ・ 山に登る練習をしておくこと。

その他

- ・ 発災時に倒壊するなどして避難の支障になるような家は除去しておきたいが、更地になると固定資産税が上がるのが障害となる。優遇措置を。
- ・ 地図にCB塀をプロットする作業が進んでいる。→ここから防災地図が作れる。
- ・ 建設仮設＝プレ協＋全木協＋徳島型
- ・ プレカット工場は沿岸部に集中しており、全てプレカット前提には疑問がある。
- ・ 工具箱さえあれば出来るように。東日本被災地からは「道具を送って欲しい」と。
- ・ 毎年五軒ずつ建てるなど、プレカットではない技術の伝承を続けたい。
- ・ 県南が被災すると主力は西の大工さん。事前に仮設建設の体験をしておいて欲しい。
- ・ 5月に、福島での板倉仮設の移設がある！

今後の緊急住宅会議の進め方

- ① 仮設住宅マニュアル→改訂版への協力・移築の可能性追求（仮設敷衍型復興住宅へ）
→建設型、インフィル型、それぞれの仮設住宅の標準型をつくる。
→仮設をばらすときにパーツ化出来るように。容易に組み替えられるように。
→仮設時の床板を復興時の野地板へ、など。
- ② 耐震化
- ③ 空き家対策→本年度、県で危険空き家解除却の補助金制度を創設、来年度は十以上の市町村で補助を実施予定。幹線的避難路の優先的解決などすすめたい。

- ④ 先行高地移転。が、できる「しくみ」づくり
- ⑤ 被災者の相談役事前整備→マニュアル、想定問答集を。経験者の経験談を聞く。
- ⑥ 教育の場へ